4. 発生農場周囲の野生いのしし状況

70 主及 37月日 47 月 14 47 00 7770				
	事例数	農場の周辺環境	最寄の豚熱陽性いのししと 農場の距離	
	59例目	農場周辺で 野生いのししの生息確認 。	5.3km	
	60例目	1km以内に山地。いのしし捕獲が不十分で近隣の感染状況は不明。	80km	
	61例目	農場周辺で 野生いのししの生息確認 。	300m	
	62例目	平野~山間部に所在し、周辺は柿畑・山林。 野生いのししの生息確認 。	800m	
	63例目	山間部に所在し、周辺は森林や向上。 野生いのししの生息確認 。	4.5km	
	64例目	丘陵地の麓に所在し、周辺は雑木林。 野生いのししの生息確認 。	2.0km	
	65例目	平野に所在し、周辺は工場や雑木林。 野生いのししの生息確認 。	5.0km	
	66例目	平野に所在し、周辺は商店、田畑、雑木林。 野生いのししの生息確認 。	1.3km	
	67例目	里山付近の川沿いに所在し、周辺は山林。 野生いのししの生息確認 。	3.0km	
	68例目	平野部に所在し、周辺は田畑や河川。 野生いのししの生息確認 。	3.0km	
	69例目	平野部に所在し、周辺は田畑や民家。 野生いのししの生息確認 。	9.6km	
	70例目	山間部に所在し、周辺は山林。 野生いのししの生息確認 。	14km	
	71例目	山裾に所在し、周辺は林。 野生いのししの生息確認 。	1.1km	
	72例目	山林近くの平野部に所在し、周辺は田畑。 野生いのししの生息確認	3km	
	73例目	平野部に所在し、農場横に河川あり。 野生いのししの生息確認 。	2.5km	
	74例目	山裾に所在し、周辺は雑木林や畑。 野生いのししの生息確認 。	600m	
	75例目	山裾に所在し、周辺は人家、田畑。 野生いのししの生息確認 。	1.1km	
	76例目	山間部に所在し、周辺は山林。 野生いのししの生息確認 。	450m	
	77例目	丘陵部に所在し、周辺は田畑、雑木林。 野生いのししの生息確認 。	1.4km	
	78例目	丘陵部に所在し、周辺は雑木林、畑。 <mark>野生いのししの生息確認</mark> 。	2.0km	
	79例目	山間部に所在し、周辺は山林。 野生いのししの生息確認 。	1.4km	
	80例目	周辺は住宅地、農地。 野生いのししの生息確認 。	4km	
	81例目	畑、林に隣接、周囲に養豚農場。 <mark>野生いのししの生息確認</mark> 。	12km 9	2
	82例目	平野部に所在し、周辺は田畑。 野生いのししの生息確認 。	9km	U

5. 疫学調査検討会での提言(概要)

【令和3年12月7日第16回拡大豚熱疫学調査チーム疫学検討結果より】

- <u>1. 離乳舎における衛生管理</u>
 - ・発生は離乳舎のワクチン接種前後の豚で確認
 - ワクチン接種のみで感染を防ぐことは困難
 - ⇒離乳舎への出入り時の消毒等の衛生対策の徹底
 - ⇒物理伝播の要因となる小型動物の侵入防止
- 2. 農場周囲のいのしし対策
 - 周辺に野生いのししの生息、感染個体を確認
 - 近くまで豚熱ウイルスが存在している可能性
 - ・農場近くにいのしし、ウイルスを近づけないことが重要
 - ⇒周囲の餌場の点検や樹木の伐採・整理整頓
 - ⇒農場内だけでなく周囲の消毒

豚熱感染いのしし生息エリアの養豚場における衛生対策のポイント

- 1. 農場周囲の消毒等
- ① 農場周囲の餌場となりやすい場所や雑木林などいのししが隠れる場所の伐採・整理整頓
- ② 柵外側の定期的な消毒等により農場にいのしし・ウイルスを近づけない
- ③ 農場内へのウイルス侵入を想定した衛生管理区域内の定期的な消毒
- 2. 離乳舎における衛生管理 (1) 畜舎内用の①長靴の履き替え②衣服の更衣、③畜舎立入り時の手指消毒、④畜舎に持ち込 む資材の消毒
- 3. 消毒液濃度及び交換頻度
- 有機物の存在を前提にした適切な濃度の消毒薬、踏込消毒槽は1日1回は交換
- 4. 知事認定獣医師の教育 ワクチン接種のみならず衛生管理の指導を担えるよう家畜保健衛生所との連携体制を構築

(2) 畜舎ネズミ等の侵入防止のため、壁や天井の点検及び修繕

山林からウイルスを持ち帰らないため靴・衣服の土を山で落とし、帰宅後直ちに洗浄







1-(2)









衛生管理区域

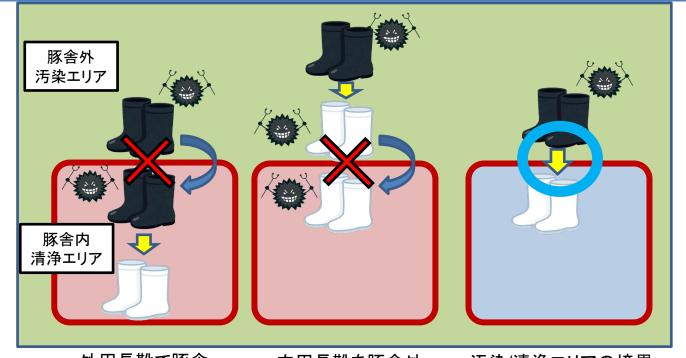
5. 疫学調査検討会での提言(概要)

【令和4年8月3日第17回拡大豚熱疫学調査チーム疫学検討結果より】

- 1. 農場・豚舎出入時の衛生対策
 - 消毒不十分、消毒後に行動を通って再汚染する可能性がある動線を確認
 - ⇒汚染エリアと清浄エリアの区分け、境界を明確にした上で、消毒(適切な 消毒剤、使用方法)、靴・衣服の交換、動線の確認等によりウイルスの持

ち込みを防ぐ

豚舎出入り時の衛生対策



・外用長靴で豚舎 に入らない

・内用長靴を豚舎外に出さない

・汚染/清浄エリアの境界 で履き替える

5. 疫学調査検討会での提言(概要)

【令和4年8月3日第17回拡大豚熱疫学調査チーム疫学検討結果より】

- 2. 農場・豚舎内への野生動物等の侵入防止
 - ・ネズミ、ネコ、鳥等の動物糞でPCR陽性を確認
 - ⇒豚舎、飼料保管庫、堆肥舎、死体保管庫などの侵入防止対策 (草刈り、整理整頓、破損部位の修繕等)
 - ⇒家保、管理獣医師等の外部目線の点検・指摘
- 3. 豚・資材等を介した病原体の侵入防止
 - ・豚舎間の豚の移動に未消毒のケージ等を使用
 - ⇒豚舎間の豚移動時にウイルスと接触しないよう、使用前に洗 浄・消毒したケージ(未舗装の通路では十分な消毒効果を得ることは難しい)を用いる
- 4. 子豚の飼養管理及び早期通報の徹底
 - 移行抗体が低下した離乳豚、接種から日数が経過していない肥育豚で初発の感染
 - ⇒偏りがないよう初乳を十分摂取させる、豚舎では日常から丁寧な観察・記録、異常を速やかに把握